

はじめに

第一章◎ この人たちに聞く天津

- すべての人に、しかるべき地位を 陸煥生・天津市人民政府副市长……………一八
- 天津の開発区は、順調に発展中 劉惠文・天津開発区計画財務処長……………二二
- 作家たちも「海を潜つて」奮闘 蔣子龍・天津作家協会主席……………二九
- 中医学は世界に向けて開放 石学敏・天津中医学院付属病院長……………三六
- 気功をカメに学び、長生きとなる 周穩豊・天津中医学院教授……………四三

第二章◎ 天子への津として発展

- 新石器時代からすでに集落があつた……………五二
- 南北の運河のジョイントとなる……………五八

第三章◎ 対外的な開港の光と影

- 明代（一五世紀）に天津衛となる……………六五
- 三岔口には万という船が連なる……………七三
- アヘン戦争から天津の開港まで……………八二
- 租界という名の半植民地ができる……………八九
- 義和団後の天津をみた日本人記者……………九四
- 洋務運動と三岔石にみる工業化……………一〇三

第四章◎ 古長城から天津名物まで

- 黄崖関の古長城にできた八卦街……………一一二
- 天津新駅から勸業場かいわいまで……………一一五
- 周恩来記念館は当時のまま……………一二九

歴史・革命・自然そして芸術	二二
新装なった民俗博物館と古文化街	二二五
泥人形や揚柳青など多彩な民間芸術	二二九
世界三大宗教と共存する儒教、道教	二三三
天津のうまいもの四選	一三八
李白の額をかける唐代の独樂寺	一四二
二つの「街」につく新名所の天塔	一四五

第五章 ●

周恩来にとっての天津

三回目の母校視察	一五三
南開学校の免費生	一五五
敬業楽群会と『敬業』誌	一五七
『校風』誌にみる論調	一六一

周恩来の演じた女形	一六五
「大江歌罷掉頭東」	一六八
天津の五四運動のなかへ	一七〇
『天津学生連合会報』の編集長	一七二
「覚悟社」の結成	一七五
『覚悟』誌にみる論調	一七九
双十節の京津連合デモ	一八二
学連・救連の指導者逮捕	一八五
『警庁拘留記』より	一八八
『検庁日録』より	一九〇
八・一六陶然亭集会	一九五
勤工俟学の途へ——『覚郵』誌	一九七
「我是愛南開的」	二〇一

第六章◎ 天津はいま——十年の変化

暗く、小雨ふる天津へ到着する……………	二〇七
文京地区にある南開大学と日本語科……………	二二二
水上公園の花見と八十二期生……………	二一九
専家楼という名のゲストハウス……………	二二五
冬將軍の到来とともに白菜馬車が……………	二三〇
百年前の洗礼式とXマスパーティー……………	二三五
門松をたてた新年会のお客さん……………	二四一
春節にみる中国人の家庭……………	二四六
柳絮がふわりと舞い、三八節となる……………	二五四
大きく変化した天津の景観と海河……………	二六〇

おわりに